

緑鯨城会便り

ふれあい

第73号
平成30年12月

発行：鯨城会 緑鯨城会
名古屋市高年大学 鯨城学園
編集：緑鯨城会 広報委員会



「アイラ」 32期 北山みね子さん製作の木彫り

目 次

目次	3
運営委員会だより	総務長 水谷 敏夫 4
第 23 回趣味の作品展を終えて	副会長 近藤 比呂史 6
第 23 回趣味の作品展の状況	7
ボランティア	10
要池公園の清掃に思うこと	29 期 平田 信幸 10
「名古屋市こころの絆創膏」キャンペーンに参加して	30 期 伊藤 みさ子 10
鶴舞公園クリーンキャンペーンに参加して	30 期 坂神 誠 11
ペットボトルのふたと古切手収集について	ボランティア委員会 11
行事委員会活動・30 年度前半の行事实施状況について	行事委員会 12
先輩のコメント	13
自信⇨過信	5 期 渡瀬 章司 13
高齢者の居場所	10 期 荒川 親郎 13
仲間に感謝	11 期 水戸 和子 14
生きてる喜び	13 期 土田 幸子 14
老人のつぶやき	15 期 鈴木 鐵雄 14
敬老の日に米寿を迎えて	16 期 淡川 聰 15
中日ドラゴンズとは	16 期 国井 正敏 15
緑鯨城会に関する雑感	16 期 伊藤 昇治 16
コーラスを楽しんでいます	17 期 山口 晃 16
心ゆたかに	18 期 大橋 ます江 17
雑文	18 期 大村 忠 17
愛着心	18 期 熊田 克己 17
感動と希望	18 期 三村 安子 18
喜びの輪を広げる楽しみ	19 期 荒川 稔 18
昭和 34 年春秋	19 期 馬越 求 19
楽しみな緑鯨城趣味の作品展	19 期 土井 徳郎 19
緑鯨城健康体操	19 期 山口 三枝子 20
俳句・短歌・川柳コーナー	21
特別寄稿	22
90～100 才の時代を迎えて	22 期 尾藤 宗男 22
名古屋城天守閣木造復元で思った事	29 期 水谷 敏夫 22
中国の秘境へ	23 期 鳥山 務 23
31 期生緑鯨城会の活動状況	31 期 高野 孝 24
「半分、甘い」	31 期 河村 興彌 25
Invitation to English Conversation Club	30 期 平田 秀 26
アトラクション プログラム	総務 渋谷 稔 26
ウォーキング同好会活動報告	26 期 加藤 勝江 27
表紙「アイラ」について & 編集後記	28

運営委員会だより

総務長 水谷 敏夫 (29期 文化B)

第3回運営委員会 (6月16日)

1. 会長挨拶 (原田)
 - ・32期生地域ミーティングの件で説明
2. 代議員 幹事会報告
 - ・30年度の公開講演の説明がありました。
3. 協議事項
 - ・23回趣味の作品展について、近藤副会長より進捗状況の説明とお願い。
4. 活動報告と連絡
 - (1) 総務
 - ・ふれあい誌を印刷日に封入しますので、応援を依頼する。
 - (2) ボランティア委員会
 - ・7月の予定と鶴舞公園クリーン・キャンペーンへの参加と募集のお願い。
 - (3) 行事委員会
 - ・7月の予定 (駒ヶ岳ロープウェイ・養命酒工場見学ツアー) 後半の行事、募集と案内。

第4回運営委員会 (7月21日)

1. 会長挨拶 (原田)
2. 代議員・幹事会報告 (馬場)
 - ・本年度グランドゴルフ交歓会は開催します。
3. 協議事項
 - ・平成31年度総会後のアトラクションについて4種目に決定。
4. 活動報告と連絡
 - (1) ボランティア委員会
 - ・8月の活動と予定の報告。
 - ・鶴舞公園クリーン・キャンペーン参加者の一覧表を配布。
 - (2) 行事委員会
 - ・5/22日のプラネタリウムの参加人数は47名でした。
 - ・駒ヶ岳ロープウェイ・養命酒工場見学は43名で確定しました。
 - ・9月・11月も予定があります。

第5回運営委員会 (8月19日)

1. 会長挨拶 (原田)
2. 協議事項 (近藤副会長)
 - ・趣味の作品展の準備状況報告有り。
3. 活動報告と連絡
 - (1) 総務 (水谷)
 - ・今年度のグランドゴルフ交歓会は水谷が担当する。

(2) ボランティア委員会

- ・9月の予定と募集を案内する。
堀川清掃・かきつばたの里・緑市民病院・鯉城図書館のボランティア。

(3) 行事委員会

- ・9月11日のなごや地球ひろばは31名です。
- ・11月7日のあいち航空ミュージアム見学は32名です。
- ・これからの行事案内が有りました。

(4) 広報委員会

- ・ふれあい誌73号の案内と予定。
- ・23回趣味の作品展に関連する活動の件。

第6回運営委員会（9月15日）

1. 会長挨拶（原田）

- ・30周年記念行事について話有り。

2. 代議員・幹事会報告（馬場）

- ・グランドゴルフ実施要項の説明有り。
- ・16区フェスティバルの今年度実施は無理との事で来年度検討する。

3. 協議事項

- ・鶴舞公園クリーン・キャンペーンの役割分担について発表有り。
- ・33期生の第2回地域ミーティングについての説明有り。
- ・趣味の作品展についての進捗状況と役割分担の発表有り。

4. 活動報告と連絡

(1) 会計

- ・予算執行状況の報告。

(2) ボランティア委員会

- ・10月の予定と募集有り。雑巾の寄付協力依頼が有りました。

(3) 行事委員会

- ・マラソンフェスティバルに応募の説明有り。
- ・各月の行事参加状況報告有り。

(4) 広報委員会

- ・ふれあい誌73号原稿の依頼確認有り。
- ・趣味の作品展での表示ポスター等の状況報告。

千日紅



第 23 回緑鯨城会作品展を終えて

趣味の作品展の実行委員長 近藤 比呂史 (30 期 地域 A)

10 月 27 日 (土) 朝 4 時 30 分、いつも通り起床。気象情報によれば、9 時には雨が上がり、午後には晴天に変わるとのこと。作品展の成功か否かは、天候次第と考えていた為、“やった”と云うべき嬉しい情報であった。

今回の作品展を実行委員長として昨年 11 月の反省会后、以下の課題を自己に課すことにした。

1. 作品展をどのように捉えるか。

当会の「おまつり」と捉え、全員で達成感を味わえるような内容にすること。準備段階での A・B 各グループ作業の円滑及び当日の会場役割分担と実践の徹底に留意すること。結果、諸作業の分業と完成達成感を互いに味わうことが出来た小さな一例として、30 期生仲間での「三角クジ」づくりが該当したのではないだろうか。

2. 作品展を通して何をすべきか。

まずは、来場者の方々には「来てよかった」と思ってもらえること。素晴らしい作品との出会いと節度ある説明、適度な通路空間、ゆったりとした鑑賞、その後の三角クジ抽選と心温まる喫茶サービスと友との語らいが出来るよう努めたこと。トータルスペースを考慮し、適正作品点数の目標と無理のない出展お願いに留意した。

出展者の方々の「出展してよかった」に対しては、余裕のある飾り付けに、より生きた作品に映るよう努めたこと。そして、31 期生に対しては、より確実に、平易な引継ぎができるようにすること。

ただ参加し、眺めるだけではなく、先輩と共同作業をすることで、体験を通じ次回対策を考えてもらうよう努めた。

また、作品展開催中は仲間との交流には絶好の機会でもあり、先輩・同輩・後輩及び出展責任者との積極的な交流を行うべきと捉えていたが、実態はどうであったであろうか。

3. 楽しさをどのように創出するのか。

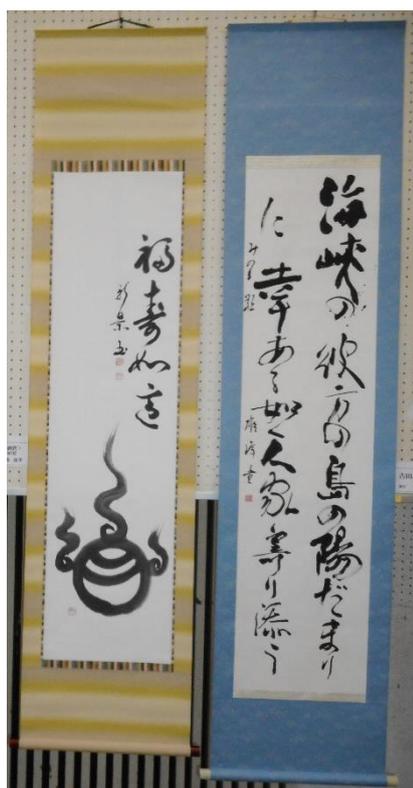
でき得る限り、多様な作業を分けての協力体制が互いの交流を促す一体感を生み、楽しさに繋がるのではないか。残念ながら、この課題に関しては、未だ道半ばであったと思う。

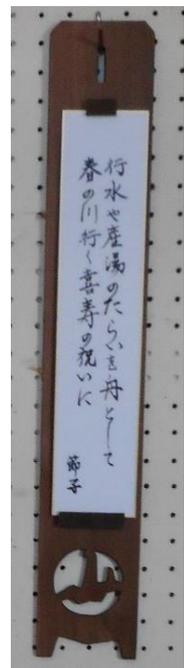
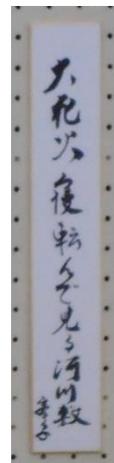
今回のポスター、三角クジ、受付カード、礼状等には強い思い入れが反映されていますが、緑鯨城会の各同好会、委員会活動状況ポスターを全面掲示すること等の良いことは継続し、改善すべきことは思い切って改善工夫をする。それらが、伝統をかたち作っていくのではないだろうか。

第 23 回趣味の作品展の状況

多くの出品された作品のほんの一部を、本誌に掲載して、素晴らしい作品展の余韻を味わっていただければと思います、写真撮影したものを掲示しました。

- 備考 ① 広報委員の独断と偏見で選択しましたので、何卒ご容赦ください。
② 出品者名、作品の標題等省略致しました。ご了承ください。
③ 写真撮影に関しましては、30 期の渋谷稔さんと福田聖太郎さんにご協力を頂きました。ありがとうございました。







☆ ボランティア ☆

要池公園の清掃に思うこと

平田 信幸 (29期 生活B)



毎月第4日曜日10時～11時まで要池公園の清掃を行っています。

参加者は10人～15人位の方の参加です。毎月同じ顔ぶれの方が多いです。楽しい事ではないけど、多少社会に参加して世の中、役に立っているのかなと自己満足しています。

鯉城学園に通っている頃、学長先生（河村市長）が人事に行く前に、ボランティアをしてくれと言われた言葉が思い出されます。

今後大勢の方参加される事を期待します。

「名古屋市こころの絆創膏」キャンペーンに参加して

伊藤 みさ子 (30期 健康B)

9月10日（水）金山総合駅に17時30分集合で、昭和鯉城会・南鯉城会・天白鯉城会・緑鯉城会が参加しました。区役所の人から渡された袋には「こころの絆創膏」100個入っていました。

「お疲れ様です、名古屋市のこころの絆創膏のキャンペーンです」「名古屋市のこころの絆創膏をお配りしています」と声をかけ配ってくださいと言われ指定された場所に立ちました。

仕事帰りの人が、携帯電話をしながら歩く人、人と話しながら歩く人が足早に通り過ぎ、声をかけるにも後退りしてしまいます。

この人ならもらってくれるかな、と声を掛けたら向こうでもらったよと言われ残念。「こころの絆創膏です」と言うと、心に悩みを持つ方は一人で悩まず相談機関に相談する「ああ、聞いたことある」と耳を傾けてくれる人もありました。

こころの絆創膏、かばんに持っているときがケガした時も役に立ちますよ、と余分なこと事もアピール。

もう配り終えた人があちらこちら現れ、あせり心細くなった。「まだ終わってない？」と皆さんが配るのを助けてくれほっとしました。

参加してみて、今まで町でティシュペーパーやサンプルや広告などを配っている人を良く見るが、大変だなと少し気持ちがわかりました。

⇒お疲れ様でした！（広報委員）

鶴舞公園クリーンキャンペーンに参加して

坂神 誠 (30期 文化A)

10月6日、鶴舞公園クリーンキャンペーンに参加しました。

当日のNHKテレビの降水確率が50%なら中止。前夜にはどこのテレビ局も50%であり「中止だな」と思っていたら、当日朝NHKだけが20%であり決行となりました。

しかし、開会式の9時45分前には小雨が降りだしましたが、緑鯨城は担当の竜々池南側へ向け55名が元気よく清掃に出発しました。

今回のキャンペーンの大きな目的が、在校生とOBとの交流。



32期生が7名、33期生が8名参加してくれ、30期と32期、31期と33期と一緒に活動し交流を図る予定でしたが、人数の多さもありほとんど機能しませんでした。やはり事前の徹底の必要性を痛感しました。

雨の止む気配はなく、10時30分には清掃活動を中止しました。

キャンペーン終了後は、相生山の「鈴のれん」で交流会。

32、33期の各2名を含め24名が参加しました。それぞれに、学校生活・クラブ活動、緑鯨城の活動など、アルコールも若干入り盛り上がったのではないのでしょうか。



ただし交流を目的であるのなら、自己紹介コーナーを設ければ良かったと思いました。

また、現役生には500円程度の補助金を出して、より多くの参加を期待するという案はどうでしょうか？

いずれにしろ今回参加した現役生には、ぜひ緑鯨城に参加して欲しいものです。

ペットボトルのふたと古切手収集について

ボランティア委員会

雑巾作成と配布のほかに、ペットボトルのふたと古切手等を収集して、緑福祉協議会へ寄贈し、少しでも福祉のお役に立てるよう努力しております。

総会、作品展、役員会、清掃活動時等に受け付けております。

皆様のご協力をお願いいたします。

☆ 行事委員会活動 ☆

30年度前半の行事实施状況について

行事委員会

本年度も明るく・楽しく・元気よく」をモットーに皆様の行事を進めております。

◎ まず、5月22日にはプラネタリウム鑑賞会を47名の参加を得て名古屋市科学館で実施しました。

今年7月には「火星大接近」を控え、「めぐる惑星たち」のプログラムでした。当日の名古屋の夜空から翌日の朝方までの一日も鑑賞。火星大接近の7月31日が楽しみで、大接近時の夜には肉眼で眺めることができ一段と明るいかな？と思いました。地球からは5,759kmとかで現在(10月1日)では8,831kmとのこと。

夜空に目が向くようになりました。鑑賞後は希望者による昼食会で歓談しました。



プラネタリウム鑑賞後のランチ会
5月22日

◎ 7月18日は、駒ヶ岳・養命酒工場見学バスツアーで43名の参加で天候に恵まれ雄大な標高2,600mの千畳敷カールは絶景でした。夏の日差しの中でも、山頂のひんやりした空気は涼しさを感じ日陰での景観を眺めながらのお弁当は美味しく感じられました。その後の養命酒工場見学では試飲もありショップでの買い物など山間の澄んだ空気を感じることができました。



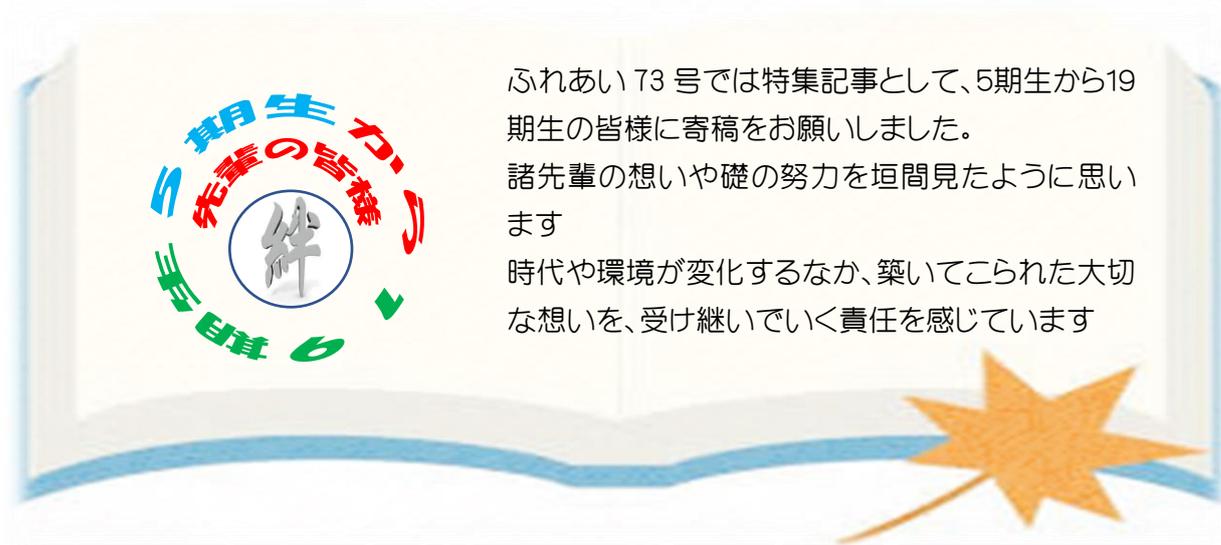
◎ 9月11日はJICA「なごや地球ひろば」での学習会に30名の参加でした。日本の食糧自給率が低い(40%以下)こと、その中で食品廃棄物が食料消費量の20%もあることなど食糧安全保障の必要性を実感しました。また、青年海外協力隊員としてスリランカに2年間スポーツ(テニス)普及された体験談は文化・習慣の違いなど興味深いものでした。言語がシンハラ語、タミル語があり英語も通じるそうです。



体験談： テニスの普及活動スリランカでの2年間のボランティア活動

◎ 今後の行事は、バスツアーの「あいち航空ミュージアム、明治ファクトリー」見学「大須演芸場での演芸」鑑賞「名古屋ウィメンズマラソン」の沿道整理、誘導等のボランティアを予定しています。

☆ 先輩のコメント ☆



ふれあい73号では特集記事として、5期生から19期生の皆様に寄稿をお願いしました。

諸先輩の想いや礎の努力を垣間見たように思います

時代や環境が変化するなか、築いてこられた大切な想いを、受け継いでいく責任を感じています

自信≡過信

渡瀬 章司 (5期 園芸)

カメラハイクで早歩きのコツを覚え、誰にも負けない早歩きに自信がつき、旅先での少々の不調でも強行し、私の不摂生による再度の入院生活で事態が一変し、体力気力も衰え、カメラとも別れ、誰にも負ける鈍足となりました。

朝の散歩会もリタイアで、目下週2回のリハビリに通って復帰を目指して頑張っている今日この頃です。 “懺悔” “懺悔”

年かさね 増えるは薬 減るは友

つみ草に 薬草見つけ 明日がある ボケてない 薬仕分が 出来たもん

薬呑む 酒をのめよと 誰がいう なき友の 供養のためと 杯重ね

高齢者の居場所

荒川 親郎 (10期 園芸)

緑鯨城会入会以来、「朝の散歩の会」では、毎週土曜日の朝7時に滝の水緑地より滝の水公園迄の散歩と、後の一時をモーニングと談笑で過ごします。

この20年間変わっていません。

歩くことと会話(健康とコミュニケーション)を意識した人達の集まりである。

尚、代々世話役の器量の大きさに拠るところも大きい。

虚弱高齢者を支えて頂ける皆様に感謝しつつ、安住の居場所とさせていただきます。

仲間に感謝

水戸 和子 (11期 生活B)



緑鯨城会会員として20年、会の各役員を無事終えました。

楽しい鯨城会を目指して、行動する知恵や力を皆さんと共に学びました。作品展、喫茶サービス、期別活動、ボランティア活動等々、思い出の数々が私のアルバムを埋めつくしています。改めて、一緒に協力し合った仲間に感謝します。今は亡き先輩・後輩の霊にも感謝です。

現在は支援組の私ですが、緑鯨城会の実績を大切に、会員皆様の今後のご活躍を祈念いたします。

生きてる喜び

土田 幸子 (13期 健康)

このところ、テレビ・新聞など報道される高齢者の明るい話題もあれば、暗い話もある。

私もすでに、後期高齢者の仲間入り。健康維持のため、緑リズム体操に週3回、池田先生のご指導を受けています。

時にはお喋りで注意を受けることもありますが、体操はもとより皆さんとのお喋りが楽しみのひと時です。

感謝と笑顔を忘れずに、クラブを継続することが、私の健康法です。

老人のつぶやき

鈴木 鐵雄 (15期 美術)

今、想えば高年大学を卒業し、緑鯨城会に33名が入会致しました。以来16年間を経た今日現在、3名になってしまいました。

省みますと、私の人生の中で、学園・鯨城会での生活は懐かしく、楽しい思い出ばかりです。

それよりも、今の私の心情の一端を書かせて下さい。

同時代の友人と語る時、健康・過去の思い出・自慢・愚痴・家族のこと等々。結果的には、もう歳だねえで終わってしまう。一方では、このまま歳をとって行くことの抵抗感も拭えないで、残された人生をどう生きるのかと模索する人も少なくない。

明日の命は、誰にもわかるものではない。死にも通じる訳で、そのための不安を感じることは当然と思う。

宗教家に言わせると死後の解釈は色々だが、本当のことは誰にもわからない。かの釈尊でさえ、弟子に聞かれて、笑って答えなかったと言われている。そこで死ぬこととは、天命と思わざるを得ない。決して恐れることなく、甘んじて受け入れることが大切なのかと思う。

そのためには、「今」を懸命に生きる。懸命に生きるとはどんなことなのか？

人は各々、生まれも育ちも環境も違った生き方を送っている。そこで「各あるべきだ」という鉄則はないが、少なくとも自分なりの目標を持って生きることが、その人の生甲斐ではないかと……。

敬老の日に米寿を迎えて

淡川 聡 (16期 美術)



今年は凶らずも退職時の会社の社長名と同会社の全退職者の会長名、並びに名古屋市長と家族からも米寿のお祝いを頂き感謝、感激の思いです。

さて、私の人生は 84 歳頃まで健康でしたが、その後は種々の病気で通院し、今回は入院することになりましたが、鯨城学園で学んだ「絵画の趣味」のお陰で前向きに生きられました。こ

れは関係者の皆様と家族の支援が、あればこそと思っています。

中日ドラゴンズとは

國井 正敏 (16期 園芸)



印象のある思い出のゲームは、昭和 26 年巨人戦の火災事故、28 年のナイター開き、29 年の日本シリーズ 1・2 戦、51 年巨人戦で広野の逆転満塁サヨナラホームラン等である。57 年の優勝で禁煙した。以後優勝する度に実行したことは、勤務先の事務所が、10 階であり階段を登ることにし、キライな納豆を食べる事にした。

家庭菜園、数独、カラオケ等を実行し、楽しく癒やされる生活をしている。

緑鯨城会に関する雑感

伊藤 昇治 (16期 生活A)

- 昭和区より平成三年、四世帯同居し鳴海町滝の水に移動した。
- 朝の散歩同好会（初代世話役は若月寛治氏）に、私も早速 16 期で入会しました。昨年まで 4 名でしたが、2 名減りました。
- クラスの緑区在住者から 1 名ずつ役員を選出する時、私は母の介護等で免除頂きました。が途中より副会長に就任。現在は 3 度目の期別世話人になっています。
- 7 年前 70 代で肺繊維癌により、左肺下部全摘出！
- 39 年間のサラリーマンを終了して、シルバー人材センターに登録もしました。
- 鯨城学園ではクラス代議員で、月曜は役員会等にでました。ASC（シルバーカレッジ）は木曜日の文化学科に行きました。両学園生活で、男女共学、修学旅行、体育祭、文化祭を経験しました。現在は、運営委員会の会議も体調の良いときは、出席させていただいています。皆様方のご支援の賜と感謝申し上げます。

コーラスを楽しんでいます

山口 晃 (17期 生活B)



鯨城学園卒業後、勧められて学園卒業生のサークル「こじょう混声合唱団」に入団、毎年催される鯨城OB文化祭などへの出演を目指して、家内と共に週二回のレッスンに参加。

周囲に遠慮なく声を出せるのは、それなりの快感であり、大人数の合唱は、カラオケでは味わえない迫力があります。

2部合唱曲を主体として、ハーモニーを楽しんでいます。皆さんも 一緒にいかがですか。

感動と希望

三村 安子 (18期 文化B)



本年7月18日、バスツアー「木曾駒ヶ根ロープウェイと養命酒工場見学」に参加しました。

快晴の下、間近に見る山、遊歩道を歩きながら高山植物を見つけたりと、素晴らしい体験の連続で、心から感謝しています。

参加者名簿で18期として、一番上に名前を見てショックでした。

行事、趣味の作品展見学、公開講演会等、参加できることが生きる喜びになります。年を重ねても、感動する事への希望を、持ち続けたいと願っております。

喜びの輪を広げる楽しみ

荒川 稔 (19期 園芸)



園芸学科在学中に、塚本先生から1本の皇帝ダリアの苗をいただきました。

その苗を育てて開花させた時の感動を、後輩達にも与えたいと、園芸学科の新生達へ各1本ずつプレゼントすることにして、10年以上が経ちました。

今年は猛暑続きに加え、台風が2度も接近してきたため、枯らしたり、途中で茎が折れた人が多かったようです。

春に入学して来る新生にもプレゼントできれば…。

皇帝ダリア

(キク科・多年草・開花時期11月)

桔梗



昭和 34 年春秋

馬越 求 (19 期 福祉)



昭和 34 年、就職のため京都から名古屋に移り住んで 60 年が経過。22 歳の春だった。この年、二つの大きな出来事があった。9 月 26 日の伊勢湾台風来襲と、10 月 1 日の鉄骨鉄筋コンクリート造りの名古屋城の竣工である。

伊勢湾台風の直後、大きな被害のあった海部郡八開村に派遣され、中学校の体育館に泊まり込んで被災者のお世話をする事になった。“全体の奉仕者”を自覚する契機となった貴重な体験である。

名古屋城天守閣竣工は、大災害の直後のため祝賀行事は自粛され、名古屋城のシンボル金の鯨鯨が、無蓋車に乗せられて、市内目抜き通りを巡行した姿だけが微かに記憶に残っている。

木造天守閣再建に期待したい。

楽しみな緑鯨城趣味の作品展

土井 徳郎 (19 期 美術)



鯨城会に御世話になって十数年経過した。十年ひと昔というが、早いものである。最初の頃はよくバス旅行や、見学等に参加していたが、自分も仲間も行かなくなる事が多くなり、足が遠ざかってしまった。

ひとつだけこだわって続けている事がある。それは「趣味の作品展」である。これだけは欠かした事なく、毎年出展させていただいている。続けることは良い事だと肝に銘じ、せめて作品展の出展だけは、命ある限り続けたいと思っている。

“希望” 緑区に区民ギャラリーを！！

緑鯨城健康体操

山口 三枝子 (19期 生活A)



以前中日新聞に掲載された体操教室の記事が気になっていました。

今年3月の「ふれあい」にて、高須賀さんの文章を見つけ早速に申し込み、参加してみると何と新入生の私が、期別で最古参と紹介されビックリ！！

年齢的には、お元気なお兄さん、お姉さんも多数おられ心強かったです。

皆様にはついて行かれませんが、ボツボツと遺れたらと想っています。なにせ後期高齢者、体操がなかなか覚えられず、悪戦苦闘中ですが、楽しく参加しております。

滝の水公園のピラカンサ



俳句・短歌・川柳コーナー

俳句

木犀の香りを運ぶ風仄か
秋空や光る飛行機無音なり

二十九期 文化A 熊田 八郎

陸奥の旅を誘ひてななかまど
凧や喪中の葉書届きをり

三十期 地域A 倉知 峯子

古民家にぼとりぼとりと熟し梅

三十期 文化A 大矢 三智子

じわじわと高ぶる慕情秋夕焼
絵手紙や蜜柑ひとつの色無限

三十期 文化A 坂神 誠

朝ぼらけいづこや百舌鳥の猛るかな

三十期 文化A 平田 秀

短歌

公園の伸びくる草と戦うは企業戦士といわれし人達
電話口「おーい電話」や足音が聞こえてこない携帯からは

二十八期 生活A 鹿島 節子

青空に白線描く飛行機はどんな景色をみるのでしょうか
外に出てぞくっとしたる今朝の冷え歩けば分かる霜降の跡

二十九期 文化A 熊田 八郎

夫婦とも八十路となれば両介護家事を分担励まし合って

三十期 文化A 大矢 三智子

満月が蜜柑のように見えてくる生きてることに満足な夜
刃物もて突き刺されたる傷のごとく今宵三日月金の滴る

三十期 文化A 坂神 誠

生ゴミを漁らず帰へるクラスあり朝な朝なに言葉掛ければ

三十期 文化A 平田 秀

*今回は、川柳の投稿はありませんでした。

特別寄稿

90～100 才の時代を迎えて

尾藤 宗男 (22 期 地域)

今盛んに、テレビ、新聞で言われている。超高齢化社会が来ると言われていますが、それに対処する心がまえを、今から作っていかねばならないと考えております。それにはまず、心の健康、体の健康、が第一だと思います。

心の健康では、世のため人のためと思い、ボランティア精神で町内会、自治会、老人会、緑鯉城会等、活動には積極的に参加をして、心を広く、くよくよせず心静かに暮らしています。

体の健康は、自分自身心掛けて、ウォーキング、体操などで体を動かして筋肉の老化を防ごうではありませんか。

ウォーキング、散歩等は 7,000～8,000 歩が有効だと言われています。体操は軽いストレッチ、ラジオ体操等を取り入れ軽めの体操で十分と聞きます。

筋力の維持に務めましょう。歳をとって転ぶのは致命的と言われています。

人のお世話にならないように、お互いに気をつけましょうネ。

健康寿命を伸ばして、こんな良い世の中です。皆で長生きしましょう。

名古屋城天守閣木造復元で思った事

水谷 敏夫 (29 期 文化 B)

私は、生まれは桑名市、その後会社勤めで全国に転勤移動しました。

一番長い居住しましたのは神戸、大阪でした。

定年になり名古屋市に住もうと決めたのは転勤で生活しやすい都市はどこかなと考えましたが、人口が中間の都市で元気な所という事で決めました。

そして、河村市長が「天守の復元を」と発言されました。このような発言をされる市長がいるとは大変おどろきましたが私は大賛成！！

名古屋市には心に残る思い出は少ないのですが天守の木造復元で全国に誇れる（自慢できる）ものが出来ると思ったしだいです。

また、この天守は名古屋市のみ可能であると聞いています。他の都市では不可能とも。多少の時間、費用が掛かっても、是非完成させて頂きたいと思っています。

神戸に住んでいました時は、毎年春に姫路城まで行きました。桜満開のお城は格別で本物の良さを十分味わう事が出来ました。

名古屋市の大変な財産、本物の建物を後世に残したいものですね。但し、完全木造復元ですよ。

中国の秘境へ

鳥山 努 (23期 園芸)

以前 NHK のドキュメンタリー番組「中国・武陵源 (ぶりょうげん)」を見て、次に行くのはここだと決めていた。世界自然遺産(1992年登録)であり、ドローンでしか撮影出来ないような断崖絶壁の林立した奇岩は、太古に起きた地殻変動で海底の岩盤が縦に隆起し亀裂が生じ、永い間の風化作用の結果出来た高さ 200m もの巨大な石柱が 3,000 本以上も並ぶ絶景で仙人が住んでいるかと錯覚してしまいそうであった。



【武陵源の一部】

この秘境の一部には、事実ある部族が住み、そこで農業(空中田園)を営む一人の農民にスポットを当てたドキュメンタリーでした。

そこはあまりにも秘境の地であるがゆえ、観光地として脚光を浴びるようになったのは、ほんの十年程前からで、以前話題となった 3D 映画「アバター」の舞台として使われたのは、この秘境だと言われている。

以前行った事のある「九寨溝(きゅうさいこう)(世界遺産・渓谷の景観)」は、その 8 年後(2017 年 8 月)の大地震で崩壊してしまい、最近まで近づけない状態が続いていた。その為中国はこの「武陵源」を観光の目玉とする為に、巨額な費用を投じ、断崖絶壁の側面に、世界最長(326m)の屋外エレベーターや、石柱間に掛けられた長さ 100m、眼下 300m 以上もあるガラスの大橋、そして断崖にへばりつく様に作られた鬼谷栈道(今にも外れて落ちそうな)等々を整備した。現在は日本の各旅行会社もこぞって、このツアーを始め人気上昇中と言う。

中部国際空港から上海空港まで 3 時間、ローカル線に乗り換え内陸へ 2 時間半目的地である湖南省・張家界(ちょうかかい)空港に夜遅く到着。中国は桁外れに広く経済的にも著しいものを感じながら…。いよいよ「秘境の旅」の始まりである。



1 日目は世界最長級(全長 7.5 km 所要時間 30 分)のロープウェイで天門山(てんもんさん)観光へ、そこでは恐怖の鬼谷栈道に挑戦。周りの絶景をゆっくり見て歩く余裕もなく、もしこの栈道が外れたらと思うと? 周りからは悲鳴が。まるで動かぬ絶叫マシンだ。さらに山道を登ると天門山山頂。ここからガラス張りの百龍(ひゃくりゅう)(屋外)エレベーターで一気に下るとそこが天文洞(山肌に山の一部分が抜け落ちてぽっかりと空いた大穴)。そこから巾 8M 程で一直線に伸びた 999 段の階段を休みやすみ下り、デラックスホテル「プルマン張家界(ち

ょうかかい)」に連泊。

2 日目は本命の「武陵源」を目指す。石柱下部の整備された散策路からそそり立つ数え切れないほどの石柱の数々を見上げながら垂直な山肌の割れ目には、松がしっかり根を張っており、その岩壁はベテラン・クライマーをも決して寄せ付けないし、これ程の壮大な景色に唯々圧倒されるばかりで筆舌に尽くし難し。

最終日は地上の仙境と言われる「宝峰湖」「黄龍洞」を遊覧船での観光を楽しむ。

31 期生緑鯨城会の活動状況

高野 孝 (31 期 国際 B)

4 月 11 日緑鯨城会総会から活動が始まり、6 ヶ月が経過したところで「31 期生の活動状況」について、語る事は、まったく時期尚早。

毎月第 3 土曜日に開催される定例役員会・運営委員会に (仮) 運営委員として出席し、29・30 期生の御指導のもと、会の年間行事を体験させて頂いています。

今は、10 月 27 日～28 日に開催される、第 23 回趣味の作品展の運営委員会に出席し、来期入会する 32 期生の指導的立場になれる様に体験中です。

やっと、先輩諸氏の顔と名前がわかる様になり、会の組織、活動内容が把握できる様になったところでしょうか？

4 月の運営委員会で、会長から 2020 年のオリンピックイヤーが、緑鯨城会発足 30 周年の節目の年に当たり、記念行事の計画が発案され、今さらながら、会の歴史、伝統を知らされると共に、鯨城会入会者の減少傾向の歯止め、魅力ある会の運営等の諸問題が提起され、只々、身の引締る思いと責任を痛感いたしました。

最後に、31 期緑鯨城会の現状は、会員数 23 名。その内、運営委員は、男性 8 名、女性 0 名、委員の絶対数が足りず、来期の組織作りに苦慮する事は、明白です。

たとえば、緑市民病院の受付、特養老人ホームかきつばたの里のボランティア活動等、男性より女性の方が順応しやすい活動が、多々ありますので、女性会員の参画を是非とも、お願いしたいところで御座います。

南信州にて 渋谷さん (30 期) 撮影



「半分、甘い」

河村 興彌 (31期 園芸)

家族の在り方というのは、ここ半世紀ぐらいで、時代や状況により大きく変遷してきている。戦中戦後の混乱期を我々高齢者の親は、国内的実情から、男女の役割分担の一線が引かれた施策の中で、共に子供たちの為にと勤勉に働いた。男は交通の便の悪いさなかを、仕事が見つければ、職場に寝泊まりをし、女は子育てと家事に追われ食糧は配給制の貧乏生活を支えた。家庭は戦死者も含め、ともすれば不在がちな男(父親)、子供心にも父親像より、母親像が頼もしく (この表現で相応しいかは定かでないが) 映っていたような気がするの分かる。

終戦(昭和20年8月)の翌年、自立助長を目的に生活困窮者の最低限度の生活を保障しようと生活保護法なるものが制定されたが、しかし、その内容たるや、あれは駄目これは駄目、持ち物の制約だらけ。それでも少しは救われると我慢した家族も有りや。

一方、生活保護法という冠名ゆえに、子供たちの生活環境に与える影響と差別が生じるを案じ、背負えない制度の重みに気迷いながらも、在りのままに、わが子が成長してくれればと、自身の苦労も厭わず頑張った母親も多かったとか。

こうした歴史の70余年、混乱苦渋の過去を、余り自ら語らなかつた親の背中に、どれだけ甘え、頼っていたことか。知らないということのむなしさと、その背のたくましさにも、もっともっと感謝の意を表しておけばよかったとしみじみ思う。遅かった……。

また歳を重ねるにつれ大切なものが増え、なお且つ、過去の生きざまに関係なく、老後はみな同じことを考え、自問自答し、人生の短さをつくづく感じながら、次の世を凝視し「家族に不安や心配を掛けたくない」という親心の深底も悟れ、まさに同感の思いをする機会も多くなってきた。

幸い、この二年間は鯉城学園で、夢と希望を貰い、自身向上の為の勉学にも励み、人間味豊かな多くの方々と接する機会もいただきました。いろいろな問題も、同じ目線で話せた世代の善さを感じ、有意義なる時間を過ごせたと確信しています。

みなさんはいかがでしょう。

産地は名古屋の昭和区。収穫期は15年。七十八才の独り言でしたが……。

まだまだ「半分、甘い」？とお叱りをうけるかも知れません。お許し乞う。

コスモス



Invitation to English Conversation

Club in Midori Kojyou

平田 秀 (30期 文化A)

How are you doing, everyone!

緑鯨城会の会員の皆さんと英会話を楽しみませんか！

最近では、小学校のお孫さんと英語で話をするとか、街中で道を尋ねられて英語で話す機会も多くなってきました。

一度英会話教室に行きたい、でも今更わざわざとお思いの初心者が対象です。

すでに、英語で話の出来る方は対象外でご遠慮願います。

単に、英会話だけではなく、アメリカの文化、習慣なども比較文化的にワイワイガヤガヤ楽しみながらのクラブ（同好会）にしていきたいです。

人数は、10名位（皆で話し合える）で、月に1, 2回を予定しています。

場所は、緑生涯学習センター（鳴海）を予定しています。

Instructor は全くの素人で、クラブのメンバーと一緒に進めていきます。教材も手作りです。なので、会費（実費は別）など Free です。

この同好会立ち上げについてのご質問等は、平田（sughirata@gmail.com）までお問い合わせください

アトラクション プログラム

総務 渋谷 稔 (30期 地域B)

平成31年度緑鯨城会の総会後に昨年と同様にアトラクションで皆さまにお楽しみいただくことになりました。

緑鯨城会の同好会をはじめ、ほか多数の皆様のご協力をいただき、下記の演目を予定しております。

出演予定の皆さん方は気合いの入った練習に励んでおられるとのことですので大いに期待ください。

開催日 4月10日（水） 開演 14：30 終演 15：40

「演目」

1. 銭太鼓の演舞
2. オカリナの演奏
3. 太極拳の演舞
4. うた声サロンみどり

2018年ウォーキング同好会活動報告

26期 加藤勝江

☆9月30日 牧野ヶ池緑地 雨天の為中止

☆平成30年10月30日(火) 築水池・西高森山 6km

△参加者：22期～31期 8名参加

◎大曾根からのゆとりーとラインを高蔵寺駅で名鉄バスに乗り換え植物園で下車(10:50)、



センターで地図や情報を得て水の無い築水池南側に沿って進み池の西堤防付近のベンチでコーヒータイム(11:35)堤防の道を渡り登山開始、汗ばむこともなく20分ほどで山頂に到着しランチタイム、西に展望が開けて名古屋駅前ビル群や白く輝く「ナゴヤドーム」の屋根が確認されました。(12:30)下山開始、池の北側散策路へ進む、こちらはアップダウンが多く息が弾む。植物園に着き、園内のログハウスで休息して14:55のバスに乗車しました。

---次回の予定---

☆平成30年11月30日(金) 愛岐トンネルウォーキング 5km～7km

ご参加 下さい!

— 31年3月の予定 —

牧野ヶ池緑地ウォーキング&ランチ 6km

集合時間・場所 平成31年3月30日(土) 9時30分 星ヶ丘バスターミナル3番乗り場

服装・持ち物 動きやすい服装・帽子 飲み物・雨具

行程 星ヶ丘バスターミナル9時35分発＝梅森坂～牧野ヶ池散策～ランチ

◎前日の午後6時52分NHK天気予報で9時～12時まで雨量50%以上中止

連絡先 加藤勝江 090-3564-7523

表紙「アイラ」について

初めての出展で表紙に使っていただけるとのお話、大変光栄です。

題名の「アイラ」は昨年鯨城学園の文化祭にて演じたマレーシアの13歳の女の子をモデルにして、成長したアイラちゃんの名前をもらって題名にしました。

彼女は現在、日本に留学中です。

北山 みね子 (32期 国際A)

小輪菊



編集後記

- ◎ 皆様のご協力により、「ふれあい73号」を完成させることができました事、誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。
- ◎ 「ふれあい74号」の発行は、来年3月です。
原稿の締切日は、来年の1月末日です。日程的に余裕がありませんので、よろしくご協力の程、お願いいたします。
- ◎ 広報委員のメールアドレス・電話は、次に示す通りです。

熊田 八郎	hkuma383@jasmine.ocn.ne.jp	TEL 895-8797
奥村 和郁	okmr1947@md.ccnw.ne.jp	TEL 892-2366
坂神 誠	msms1221@yahoo.co.jp	TEL 090-6082-5401
河内 猛男	tk9638@xj.commufa.jp	TEL 090-2182-0005
奥野 幸泰	yukiAR1105@outlook.jp	TEL 090-9093-0183

緑鯨城広報委員会